

#### ○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、公明党、松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

最近、朝夕がめっきり肌寒くなったといえますか、秋めいてきました。けさ7時の若木の温度が15度でございました。市内から比べると二、三度低いというふうな状況ですけれども、日中の温度は30度ということで、何と温度差が15度も。こういうふうな寒暖の差が一番大きい時期の季節の変わり目ということは体調に気を使いますけれども、特にことは、一般質問でもありましたように、新型インフルエンザが今から大流行の感染拡大が予測をされておりますので、高齢者の方、また慢性疾患をお持ちの方、あるいは妊婦の方、子どもたちの健康管理には、私からも十分気をつけていただきたいことをお願いさせていただき、一方、行政、武雄市においても新型インフルエンザの感染予防には全力をもって取り組んでいただきたいことを再度お願い申し上げながら、今回は、最初に少子・高齢化対策について、2つ目に行財政改革について、最後に、環境整備について通告をさせていただいております。ただ、質問項目が広範にわたるものですから、関連した質問も交えながら、今回は一般質問を進めていきたいと思っております。

まず最初に、政権選択か、政策選択かを問われた今回の衆議院選挙で、結果は民主党が圧勝し、国会での衆議院、参議院のねじれは解消が図られたかと思っておりますけれども、今度は国と地方自治体、地方議会がねじれといえますか、大きな政策の転換により、具体的には、雇用の対策の基金など46の基金事業の一部凍結、さらには、来年度の予算に向けた概算要求も全面見直しとのことで、各自治体が今から予算を組んでいく中で、中身がまだはっきりせず、一部困惑していることも事実であります。

また、生活支援、子育て支援は国民にとって非常にありがたいことではありますが、具体的に高速道路の無料化、子ども手当の支給に伴う財源をどう新政権は確保されるのでしょうか。税金の無駄遣いとされる部分で捻出できればいいわけですが、財源として配偶者控除の廃止、あわせて特別扶養控除も廃止するというので、子育て支援の元祖である公明党としては、一番教育資金のかかる高校生、大学生を抱えた家庭には一部増税になるのではないかということで非常に危惧をさせていただいているところでございます。

市長、このような状況の中で、現場の声を、また地方の声を新政権のもとでも堅持していくべき政策、持続すべき事業、さらには、景気対策については是々非々の立場で私も声を上げていきますし、市長も先頭に立っていただき、地方の声を、また現場の声を国へ、県へ、今以上に働きかけをお願いしたいというものでございます。

というのも、個人所得の落ち込み、さらには、地方経済、市内の経済状況もまだまだ厳しい景気環境にあることは事実でございます。このことは市内の土木建築業者の18年から21年度の業者数を比較してみれば、12社が廃業をなされております。また、昨日の一般質問でも

出ておりました酪農の方も10軒から4軒に減少ですか、さらには、商工会議所、商工会の会員の皆さんも会員数が減少しているというふうな状況でございます。

このような市内の経済環境の中で、武雄市の財政状況を見てみますと、今年度の税収が当初予算より約9,000万円の減収の見込みで、非常に厳しい財政状況がうかがえます。

そこで、6月に、がん対策と予防の質問でもパネルを使って説明をさせていただき、非常に現状を理解していただきましたので、今回もパネルを使わせていただき、武雄市の財政状況を説明させていただきたいと思っております。分析には、将来負担比率、さらには連結赤字比率、公債費比率などがありますが、今回はわかりやすい財政力指標、さらには経常収支比率で皆さん方に説明をさせていただきたいと思っております。（パネルを示す）

武雄市の財政力と経常収支という点で、財政力指標とは、1を超えるほど財政力、資金力が豊かなということでございます。そういった状況の中で、武雄市、さらには近隣の嬉野市を比較してみますと、武雄市は平成14年度が0.44、さらに20年度は0.51、嬉野では同じような比率で0.44、平成20年度は0.45。一方、玄海町でございますけれども、玄海町は原発の交付税が入ってきていますから、ちょっと比較にはならないかと思っておりますけれども、玄海町は1.5という財政資力の指標が出ております。これは資金の余力があるということですね。

そういった状況と、また、経常収支比率を見てみますと、武雄市は、ちょっとさかのぼって、平成13年度が82.3%、平成14年度が87%、平成20年度に至っては92%まではね上がっております。また、嬉野市の場合を見ても、平成17年度が91%、平成20年度に至っては89.5%という推移で経常支比率が出ております。ここでも玄海町を算出をしておりますけれども、玄海町は71%ということで、非常に弾力性が高い数字が出ております。

数字的に見にくいでしょうけれども、ここにグラフを書かせていただきました。75%が弾力性の目安でございます。そういった状況の中で、武雄市は92%、嬉野市も89%ということで非常に高い比率になっております。このような財政力指標、さらには経常収支比率の状況で、非常に武雄市の財政は厳しい環境にあるということが皆さんおわかりになられたかと思っております。

このような状況の中で、限られた予算を、今から質問させていただきます少子・高齢化対策、あるいは行財政改革、環境整備事業等を進めていく上で、いかに効率的に、また、いかに効果的に事業を実施していくかが市政運営に当たっての市長の責務ではないでしょうか。

そこで、先ほど説明をいたしました財政力指標、経常収支比率で、武雄市がなぜ財政力がここまで低くなったのか、また、経常収支比率がなぜ高くなったのかをまず確認しておきたいと思っております。特に平成13年度、14年度に限っては5.4%も上昇をしております。また、平成15年度、16年度の比較をしますと3.3%も経常収支比率が上昇しております。この上昇の要因をまずお尋ねしていきたいと思っております。

よろしく御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾議員、昼からの答弁でいいですか。

〔4番「はい」〕

ここで1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	12時
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。執行部の答弁を求めます。大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

それでは、お答えいたします。

まず、1点が14年度決算の経常収支比率が13年度決算に対して5.5ポイント上昇した理由ということでございます。これは、平成14年度決算におけます経常収支比率が87.7%で、13年度決算の経常収支比率82.3%より5.4ポイント上昇をしております。その要因といたしましては、歳入における普通交付税の減少、一方、歳出で一部事務負担金等の増があったということでございます。

それから、2点目の16年度決算の経常収支比率が15年度決算に対して3.3ポイント上昇した理由ということでございます。これは、平成16年度決算におきます経常収支比率が93.1%で、15年度決算の経常収支比率89.8%より3.3ポイント上昇をしております。この要因でございますけれども、歳入におきまして臨時財政対策債の減少ということと、歳出におきまして児童手当制度の拡充による扶助費、それから、農業集落排水事業特別会計の繰出金の増によるものでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私もある程度、要因は調査をさせていただきました。なぜ、あえてその辺を確認させていただいたかといいますと、数字を分析しますといいますか、分析するとか、数字を見ていく場合には、単年度の状況も当然必要だと思いますけれども、私が、先ほどグラフというか、少し見にくい点があったかと思えますけれども、年度を追って時系列で見ていくと、数字がおもしろいような傾向が出てくるわけですね。そこで何がわかるかといいますと、財政の傾向性がわかるわけですよ、1つは。財政がどういうふうな形で年度を追って傾向性があるかどうか、あるいは財政の今の問題点、あるいはどういうところに指摘があるのかかどうかというポイントが非常に見つけやすいというか、わかりやすいというような状況があります。

11月にも決算委員会が開催が予定をされておりますけれども、一般会計もしかりですけれども、企業会計、あるいは特別会計も、例えば、4年、5年のスパンの中で実績を見ていきますと、非常に、例えば、水道事業、あるいは工業用水事業がどういうふうな形で推移をしているのかどうか、どこに原因があるのかどうかというのが非常に見やすくなりますから、そういうふうなポイントを押さえて話をさせていただいたところでございます。

そういった状況の中で、先ほど、非常に財政力が弱まっていると、経常収支比率も75が目安ですけれども、93%という、もう限界値に近いような数字になってきておりますけれども、そういうふうな財政が硬直化、あるいは乏しい状況の中で、今後、武雄市は何を優先して施策を打っていかれるのかどうか。

市民病院がある程度方向性のめどが立ったという状況の中で、私も今後、今から質問をさせていただきますけれども、この厳しい状況の中で少子化対策に力を入れていかれる考えなのか、あるいは周辺部対策、非常にもう今周辺部が冷え込んでおります。そういった状況の中で周辺部対策に力を入れられるのかどうか、あるいは介護関係も質問をさせていただきますけれども、介護に力を入れていかれるのかどうか、そういうふうな状況を市長に聞いていきたいというふうな状況で思っております。

それと、もう1点、視点を変えてお話をさせていただきますと、現在、不採算部門と言われるバス路線ですね。それをちょっと考えたときに、10年後の武雄は新幹線の駅ができ、高度医療の病院ができ、それから、観光、温泉があり、陶器もあり、ショッピングセンターもあるというふうな部分の中で、今までは福岡とか、長崎、佐世保へ人口が流出傾向にありましたけれども、今後はそういうふうな新幹線、あるいは高度医療の病院を起爆剤として、出ていた分から今度は流入してくるんじゃないかというふうな非常に期待感があるわけですね。

そういった状況の中で、それは新幹線路線もいいでしょうけれども、やっぱり周辺部から武雄に来ていただく路線バスの拡充というふうな部分も政策の中にどこかに入れ込んで手を打っていただくとによって、よりよい人口増というか、人口交流で、武雄市に人が集まってくるんじゃないかというふうな考えも御提案をさせていただきながら、市長として、今後、どういうふうな形で重点施策を考えていらっしゃるのかどうか、まず、お尋ねをしていきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後の市政展開の方針でありますけれども、まず、再三申し上げておりますとおり、生活者第一、生活第一であります。やはり、今本当に苦しんでおられる方々、そして、社会的に弱い方々を救いたい、そして、こういった方々が本当に武雄に住んでよかったというような、ぬくもりのある元気な武雄市にしていきたいというふうに本当に切に思っております。

その観点から申し上げますと、強い人より弱い方々、高い方々より低い皆さん、そして、何よりもやはり周辺部にお住まいの方々の皆さんたちが本当に合併してよかったと、もう3年になりますので、そういう温かみのある政策を展開していきたいというふうに思っております。

あわせて、さまざまな施策を失敗を恐れずに打っていききたいというふうに思っております。これはとりもなおさず、皆さんの所得を上げるような政策につなげていきたい、そして、雇用を確保でき得るような政策につなげていきたいと思っております。これは、メリ張りをつけて政策の優先順位を決めていきたいというふうに思っております。

終わりになりますけれども、路線バスの件につきましては、これは基本的に乗っていただいて、その路線バスの有効性というのはあると思いますので、私としてはいたずらにそれを削るつもりはありません。やはり、これは生活の基盤インフラでありますので、ぜひこの場をかりて、乗っていただくことですね、そうすると、それが3便が4便になったりというふうになりますので、施策も同じですけれども、ぜひ使っていただくようお願いをしたいところであります。

いずれにいたしましても、私としては本当に生活者第一で施策を考えていききたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

私も市長と認識をともにさせていただき、要はもう生活者第一という観点の中で、今、いろんな問題が山積をしているかと思えます。そういった中で施策を選択していくというのは非常に難しい状況だと思えますけれども、今回の選挙の中でも政策に対してぶれるという言葉もありましたけれども、先ほど申された生活者第一の目線で、ぜひ今後とも市政運営に当たっていただきたいということをお願いしながら、一般質問の最初の少子・高齢化についてお尋ねをさせていただきたいと思えます。

少子化というような状況の中で、魅力あるまちには人が集まり、まちが、人が元気になるということは、市長もかねがね言われていることだと思いますけれども、私もまさにそうだと思います。

そこで、魅力のあるまちをつくるためには、また、将来の武雄を担ってくれるためには、子どもたちの意見をもっと市政に取り入れるべきじゃないかということで、一昨年でしたか、また、6月にも、ぜひ子ども議会の開催をお願いしたいということで御提案をさせていただきましたところ、8月22日に、執行部の方々、あるいは関係各位の方の御尽力も得ながら開催の運びとなりました。

私も最初から最後まで傍聴をさせていただいた中で、牟田議員も一緒に傍聴をさせていた

だきましたけれども、子どもたちの柔軟な発想といえますか、いろんな子どもたちの目線で活気あるまちづくりに対してのいろんな要望、意見が出されました。市内小・中学校16校の代表の子ども議員さんの方々の活気ある子ども議会でした。そういった形で、提案者として有意義な子ども議会だったということで高く私は評価をさせていただいておりますけれども、実際、まさにこのような状況の中でこちらは全員子ども議員がいろんな執行部に対して発言もしていただきながら、市長、あるいは教育長等も答弁をしていただきました。

そういった状況の中で感想をおの市の市長、また、教育長から、どのような形で子ども議会を受けとめられたか、まず、お尋ねをさせていただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

率直に言って、子ども議会は余り乗り気じゃなかったんですね。というのも、実際来られた子ども議員さんの皆さんたちが、帰ったときに、ああ、せんぎよかったと言われたら、どうしようというので、ちょっと僕もどきどきしていましたが、実はお二方の話が偶然一致していたんですね。というのは、杉原議長と浦郷教育部長が本物をやろうと。要は、議長も本物の議長、それで、市長も本物の市長と、執行部も本当に今私と対峙されている議員と同じように真剣にやろうということと言われて、背中を押されてやってみたら、本当によかったと思っています。そして、この議会と同じレベルとはとても申し上げません。しかし、子どもらしい本当にユニークな発想で、我々大人の世代が考えつかないような発想で御質問をいただいたことに、本当に武雄の未来は明るいなというふうに本当に思いました。

きょう、ケーブルワンで放映されておりますけれども、この子ども議会が放送をしていただけのようです。これはケーブルワンに本当に感謝をしたいと思います。9月21日月曜日から9月23日水曜日まで、3時間ノーカットで放送が、時間が分かれますけれども、21日から23日予定されているということですので、ぜひ市民の皆様方もごらんになっていただければありがたいと思います。

本当にやってよかったというふうに思っております。ありがとうございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

まず、大切な議場を子どもたちのために開放していただきましたことにお礼を申し上げます。

それぞれの皆様が本当に御協力いただきまして、子どもたちの感想を聞いたところでありますけれども、やはり非常に緊張したという感想が一番多かったわけですが、自分たちの提案が本当に実現されるか楽しみだ、あるいは中学生は、きょうの議会を通して武雄市

がよりよい、より住みやすい武雄市になるように、私自身も身近なことから少しずつ活動していきなさいなと思いましたが、非常に真剣な取り組みを見せてくれましたし、内容につきましても、さまざまな分野で、そして、何よりも子どもたちの表現力が問題に言われますけれども、言うべきときには言えるという、きちっとした力を持っているなということを強く感じたところでございます。

重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

高く評価をしていただいて、大変にありがとうございます。

その中で、私も傍聴席におりましたものですから、提案をメモさせていただきました。例えば、皆さんに御紹介をいたしますと、子どもたちが楽しく遊べる、もっと遊園地を多くつくっていただいて、家族連れ、あるいは観光客をふやして、ぜひ武雄市の活性化につなげたらいいんじゃないですかという提案、あるいは市の活性化として、唐津くんちは有名ですね、それとか、伊万里くんち、武雄市も武雄市内でそういうふうなくんちといいますか、伝統行事を一緒にできるような行事を、市長、できないかという提案がありましたね。それとか、ごみのない、子どもから大人まで市民全員参加のエコウオーキングをしたら、皆さんどうですかという、すばらしい子どもならではの発想が非常に私は印象に残っております。あるいはCO<sub>2</sub>の削減のために各小学校に樹木の苗を配って植林をしたらどうですかと、学習の環境の中で森林の大切さをぜひ自分たちは経験したいということの提案もありました。あるいは、節水につながる提案としては、食器洗浄器を使うと、普通手洗いするよりも3分の1から6分の1、水が少なくて済むという、統計でパネルを使ったり、いろいろして、非常にそういうふうな奇抜な提案がありました。あるいはEM菌を使って、もっと川をきれいにしたらどうですかとか、あるいはレモングラスも今議会で出ておりましたけれども、全国的にもっとレモングラスを普及させたらどうですかと、もっと武雄を全国的にPRしてくださいというふうな声も出ておりました。

そういった状況の中で、先ほど私も言いました、市民全員参加のエコウオーキング、あるいは森林の大切さを子どもたちの学習の中から学んでいかせるような植樹祭をさせていくとか、そういうふうな部分の中で、それとか、食器も先ほど申しましたけれども、節水の一環としての補助金を、購入の際は補助金をつけていただきたいというふうな提案の中で、前向きな検討というか、そういうふうな状況で、子どもたちの16の小・中学校から出た提案の中で具体的にできる提案というか、そういうふうに感じられたところがあれば、市長の御見解をお尋ねしていきたいと思いますが、御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

幾つか私も感心する御質問がありまして、橘小学校の生徒さんの食器洗浄器を購入した場合には補助金をつけてほしいということで、これは先ほど御指摘あったように、水の使用量が3分の1から6分の1になると、先ほどおっしゃっていただいたようになります。それと、僕が感心したのは、家族団らんの時間がふえると。これはもう子どもならではの発想で、本当に感心をいたしました。今、これ本当に補助がいいのかどうかですよね、ということについては、前向きにちょっと検討をしております。政策目的が、例えば、環境に配慮するといったことについては、私ども、太陽光もそうですけれども、ちゅうちょなく予算を配分しているところでもありますし、やっぱり家族団らんという言葉ですよね。もうそれを聞いたときに、何か、じーんとしました。

それと、EM菌を普及した水質の浄化についても、それもそうだなということを思いましたし、レモンガラスの普及については、もう私になりかわって、これは若木小学校の生徒さんから出ましたけれども、もう本当にどっちが市長なんだろうかと思うぐらい、よくおっしゃっていただいていたいました。

それと、市民参加のエコウオーキングについても、これは本当にいい話で、1つやっぱり子どもには負けたくないという私も負けん気を出して、エコサイクルを言ったんですね。要するに、武雄は、競輪は私は絶対に続けます。その中で自転車のまちということで一緒に、エコウオーキングがあって、エコサイクルがあって、そうすると、なかなか歩けない子どもたちでも少しでも遠くに行けるということから、そういった取り組みもぜひやりたいということ子ども議会の場で申し上げた次第であります。

そういうことで、もうほとんどすべてが少し我々の政策を工夫すればできるようなものばかりでしたので、市役所を挙げて、今、どういうふうにしていくかということを検討しているところであります。

いずれにいたしましても、これはもしやると決めた場合には、子ども議会の諸君、そして、議会の皆さんたちに早く御相談をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

検討できるものは十分検討をしていただき、具体化できるものは具体化をしていただくということは、提案していただいた子どもたちも非常に喜びを感じるんじゃないかと思っております。そういった状況の中で、ぜひお願いをさせていただきながら、せつかくこういうふうな高い評価をいただいた中で、来年もぜひこういうふうな形、また、こういう子ども議会ということが来年もできるかどうかはまた検討というふうな部分になってくるかと思えます



けれども、変えた形でも、またこういうふうな機会はぜひ今後継続していただきたいと思いますが、最後に御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

子ども議会が終わったときに、教育長と教育部長と話をしたときに、本当にやってよかったねということを申し合わせましたので、幾つか改善点もちょっとあるようですので、それを踏まえた上で、また、来年、夏休みがいいのかなと思っておりますけれども、子ども議会を議会のまた御協力を得ながら開催できればいいなというふうに思っております。開催したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、よろしくお願いいたします。将来、10年後、20年後を背負ってくれるのは今の子どもたちですから、今の子どもたちの意見を大いに取り入れることによって、人が集まり、活気ができ、少子化対策の一役を担ってくれるんじゃないかというふうな部分の思いが非常にあるものですから、いろんな形で子どもたちの意見を取り入れるような場をつくっていただきたいというふうな形で思っております。

そういった中で、もう少し少子化対策の話をさせていただきますと、ちょっと若木の例を出して恐縮なんですけれども、若木だけじゃなくて、武内、あるいは西川登あたりも非常に小学校あたりの児童数も激減をしております。言葉でいろいろ言うのも大事だと思いますけれども、百聞は一見にしかず、市長も多聞第一と言われるように、相通ずるところがあるかと思っておりますけれども、（パネルを示す）非常に見にくくてというか、数字が細かくて申しわけないんですけれども、若木町の人口と小学校の児童数の予想推移ということで、ちょっとグラフに数字を書かせていただきました。

見にくいものですから、口頭で説明をさせていただくと、若木町の人口、昭和30年、私が昭和29年生まれですから、翌年の30年ですけれども、申しわけないですけれども、昭和30年3,620人ですよ。昭和30年から55年を経た平成21年、今、人口が何と1,920人まで1,400人減少。比率からいけば47%の減少です。人口ですね。それから、小学校の児童数が昭和30年499人、今、平成21年度が117人ですよ。減少率が何と76%。382人減少ですよ、55年間で。これを統計学でいけば、あと5年後、平成26年、人口が約150名減少するだろうと。減少した場合、若木町の人口はもう1,770人。一方、小学校の児童数も見てもみますと、約47名ぐらい減少という数値の中で、小学校の児童数はもう70人ですよ。そういうふうな状況の中で、人口をグラフにさせていただきます。この激減の状況ですね。

これはもう若木町に限らず、先ほど言いました周辺部にはこういう現象、また、こういうふうな現象は武雄市だけの問題じゃないですね。全国的にこういうふうな現象があるのは当然でございます。当然だから、どこも減っているから、そのまましていいという状況ではございません。

そういった状況の中で、先ほど言いました統計学といいますか、55年間で人口で47%減、小学校の児童数でいけば76%減。あと30年、40年後の若木町を考えたときには、ちょっと頭で考えられないような状況が、地域がという部分を考えて、いろんなことが問題点が今後どう手を打っていくべきかというのが非常にわかってくるかと思えますけれども、素直に今の状況というか、あと5年後、30年後のこういうふうな状況を見られたときに、市長、グラフを見られて感じられたことを一言お尋ねしていきたいと思えます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

議員の御質問の前に、ちょっといろいろ調べ物をしたときに、実はこれは世界的に先進国は全部押しなべて減っているんですね。これは少子・高齢化で。ただ、日本だけが極めて特殊だという指摘がありました。これは日経新聞社の「人口流動学」という本の中にあっただんですが、スピードが、例えば、フランスの23倍ぐらい早いと、ドイツの47倍のスピードで進んでいるということ。イタリアよりもさらに、ちょっと数値は失念しましたが、早く進んでいると。ですので、諸外国の場合は減っているときにいろんな手を打てるけれども、日本の場合は減り方が、若木も失礼ながらそうだと思いますけれども、減り方がもう鋭角過ぎて、もう直角に近い形で減っていますので、なかなか施策の効果が出づらいというような評価がありました。

そういった中で日本の少子・高齢化、特に周辺部の少子・高齢化というのは、世界に類を見ないような難しい問題であるということを思っております。私とすれば、2つ考えられると思います。1つは、今お住まいの方が生活者第一、今お住まいの方が本当に住んでいただくということ、そして、政策的に、今、私どもは定住促進特区というふうにやっておりますけれども、それを拡充するなりして、さらに住む誘因ですよね、インセンティブを高めていくということ、これを組み合わせるしかもう道はないというふうに私自身は思っております。

そういった中で、どういう施策が考えられるのかということについては、政策部の企画担当がよく昼夜なく考えておりますので、よくまた協議をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、今、手を打っていないと、もう5年後、10年後って、もうあつという間ですよ。その状況に来たときに手を打つというのはもう、何と申しますか、手おくれと申しますか、非常にこうですね。やっぱり、ある程度課題、問題がわかっている以上は、もう先、先に先手を打っていくというのが大事な部分だと思います。

そういった意味で、当然、市長も、そういうふうな地域は当然、地域住民で考えながら、また、そこにいる議員が率先していろんな形で提案をしながらやっていくのが当然だと思いますけれども、どこかそういうふうなモデルケースと申しますか、現状課題について活性化に向けた対策室と申しますか、その辺も並行して立ち上げをしていただければ、非常にそういうふうな問題、課題が表面化して、打つ手がある程度、顕在化してくるんじゃないかというふうな部分で私自身は思っているところですが、その辺についてどうお考えなのか、いま一度お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは率直に言って、室とか課をつくって、ちょっとどうこうなるような、そういう問題ではないのかなというふうに、悪い意味じゃなくて、思っているんですね。

例えば、いのしし課、これは松尾初秋議員から御指摘あって、いのしし課というのは、それはもうやるべきことが明確にあって、今度それを駆除していく、あるいは伸ばしていくということで、こういったのは割と課になじみやすいんですね。レモングラス課もそうですけど。だけど、今の問題というのは、その3歩ぐらい手前のところでありますので、ちょっとそれよりは、今、企画担当の理事がいますけれども、その中で自由闊達に議論を進めていくと。それで、私は松尾議員に感謝申し上げたいのは、いつもアドバイスをいただいておりますので、そういった中で官、民、公を挙げて、いろんな施策を考えていく必要があるのかなと。長野県で一部分、議員から教えてもらいましたけれども、とまっている事例であるとか、沖縄の例とか、いろいろありますので、今、それを調査、研究をしているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

少子・高齢化対策というのは、行政にとっても最重大課題と申しますか、非常に広範にわたっているものですから、これがという策が非常に見つけにくいというか、手の打ちようがないかと思っておりますけれども、打ちようがないから、先ほど言いましたように、そのままにしておく、放置するわけいかんもんですから、何か手を打っていかんやいかんというのが非常に現実のところですね。そういった感じで、先ほど市長も言われましたように、群馬県あた

りでは就学支援員制度とか、いろんな形で行政もそういうふうな部分の中で前向きに支援もしている状況ですから、ぜひ具体的な形で武雄市も取り組みをお願いしたいということでおっしゃっています。

そういったことで、もう1点、少子化が原因で限界集落ということで話をさせていただきますと、限界集落というのは非常にもう先がないというふうな非情な聞こえになりますけれども、宮崎県ではいきいき集落というふうな呼び方をされておるようです。これは以前、私も常にいつも一般質問のときに紹介をさせていただいておりますけれども、限界集落というのは、もう2人に1人が65歳以上の集落を限界集落と言うわけですね。それがいよいよ武雄市にも1地区、限界集落、2人に1人が65歳の地域が1地区あるということです。それと、あと10年以内には32地区がもうこの限界集落に陥るという統計的にもう数字も出ております。

そういった状況の中で、行政として、この武雄市内の1地区の限界集落の実態といいますか、状況をどのようにつかんでおられるのかどうか、ちょっとお尋ねを、把握しておられれば、その辺の限界集落の状況を、限界集落というのは65歳が2人に1人ですから、地域のコミュニケーションがなかなか、集落自体の形成が今後非常に難しいと言われているのが限界集落でありますので、その辺を行政として、今の実態を踏まえた中で、どのようにつかんでおられるのかどうか、把握しておられれば、お尋ねをしていきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

角政策部理事

**○角政策部理事〔登壇〕**

限界集落につきましては、毎年、準限界集落とともに調査をやっておりまして、平成19年の3月に調査した時点では限界集落はゼロでございました。ところが、平成20年、翌年は、御指摘のように1カ所出ております。ただ、ここがまちの中、武雄市の中心部の集落でございまして、ドーナツ化と言えるのかなという、そういうドーナツ化とあわせて高齢化というような、そんな感じで、純然たる周辺部の限界集落とは若干意味合いが違うんじゃないかなと思っております。

あわせて、その取り組みについて簡単に御報告いたしますと、昨年度、若木、武内、西川登の各町一堂になって、1回、少子化対策の講座を開いております。人口減少を考える座談会という。これは住民の皆さんと行政とNPOと一緒に考えてみよう、そして、それぞれ現実を踏まえて、そして、何か知恵がないか考えてみようということを昨年やりました。ことしも今度は各定住特区3カ所で実施する予定でございます。ぜひ、町民の皆さん参加していただいて、一緒に知恵を絞りたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

#### ○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

武雄の1地区といますか、周辺部じゃなくて、中心市街地でも、そういうふうな集落がもう出ているというような状況を皆さん方もこの場を機会に状況をわかっただき、いろんな手を講じていただきたいということで切にお願いをしておきたいと思います。

そういった形で、多聞第一、いろんな状況を聞くのが行政でもあるし、また、市長の信念でもありますので、いろんなところへ出向いて、中心部の限界集落と、また、周辺部の限界集落というのは全然違うわけですよ。全然、全く違うですよ。そういうふうな状況の中で、その地域に応じた対策を講じていく必要もあるものですから、その辺は、いろんな中ですみ分けをしていただきながら対策を講じていただきたいということを切にお願いしたいと思います。また改めて、機会あるごとに限界集落、あるいは準限界集落に対する対応をどう講じられていくかということは常々、今後もお尋ねをしていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

そういった状況の中で、今までは少子化に伴ういろんな問題点ですけれども、今度は高齢化というふうな部分の中で、吉川議員のほうからも介護施設の充実をというふうな部分で質問も出ておりました。

都会では、保育所の待機児童がもう全国で2万5,000人ほど、都会は待機児童ですよ。しかし、田舎というか、地方は介護入所希望者の待機の方がもうあふれているというような状況ですね、地方では。そういうふうな状況の中で武雄市においても介護施設待ちの方が260人ですか、いらっしゃるということで、吉川議員のときにも御答弁をいただいておりますので、その辺は割愛をさせていただきながら、きょうの新聞にも、介護施設増床計画ということで大きく佐賀新聞にも状況の報道がきちっと載っております。介護施設増床計画達成率45%どまりと。これは療養病床の削減などが影響しているというふうなことも書いてあります。そういった状況の中で、佐賀県は実績は32%どまりというふうな形でも実態が書かれております。

ただ、独自の努力で整備推進もということで、群馬県あたりは非常に積極的に、これは力を入れられております。2006年から2008年度の3年間で特別養護老人ホーム、当初計画の倍以上増床したというのが群馬県というふうな実績もあります。担当者は他県に比べて相当の努力をした結果ということも言われていますので、ぜひこの辺も、今の武雄市の現状を考えたときに、要介護の方が軽度になられるということは非常に喜ばしいことですよ、逆に言えば。元気になられるということですから。ただ、ひとり暮らしの方とか、介護を受けられて軽度になられて、また、自宅でひとり暮らしというのが非常に困難な方が中にはいらっしゃるものですから、その辺の実態をもう一度確認をしながら、ぜひとも特別養護老人ホームあたりの増床も積極的に市長みずから力を入れていただいて、先ほど紹介しました独自の努力で整備もしているという群馬県の例を挙げさせていただきながら、いま一度、市長のその辺

の計画に対する思いを、考えをお尋ねしておきたいと思ひます。御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

きょうの佐賀新聞は衝撃を受けましたね。全国の達成率45%どまりで、佐賀の実績数が32%。でも、これよくよく読んでみると、施設で既存ベッドの転換が進んだとは入っとならんすもんね。そいけん、入っとなら、もうかなりやっぱり佐賀県は進んでいるということで、県議会の一般質問による知事答弁によると、全国3位の水準まで進んでいるということだそうす。ただ、その3位まで進んだとはいへ、さきの御質問でもお答えしましたけれども、たくさんの方々が待っとなさあわけですよね。その数値と実態のところをどうするんだということから、やはりここで期待するのが社民党なんすね。民主党の中で社民党の果たす役割というのは、私はここにあると思ひています。要するに、役人さんがつけた机上の空論に心を入れるというのが今回の連立政権の本当にかなめだというふうに思ひておりますので、そういう中では、私はまず、ベッドの、これは民主党のマニフェストにありますので、ベッドの削減の廃止を強く訴えたい。

それと、もう1つが、これは前も申し上げたんですが、知事がこれを決めるんすね。知事の認可事項なんすね。これはおかしいんすね。実際に介護保険料を決めるのは私たち杵藤広域圏の管理者なんす。そうすると、なぜ我々が決められない——ねえ、くらし部長、決められないんだらうということすね、本当に民主党が社民党とともに地方分権を本気で進めようとするならば、その権限をぜひ私ども杵藤広域圏の管理者までゆだねてほしいと。そこで、広域圏の中で、18万広域圏の中でどういふ施策が必要かということについてはよく議論と、そして、広域圏で議論をしながら進めていくということすので、これを私どももいたしましては、国に強く申し入れていきたいというふうに思ひております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

力強い言葉ありがとうございます。我々公明党も、今回の選挙で政権与党から野党になった立場の中で、その辺は大いに今の民主党にも、介護に関しては整備、充実を訴えていきたいと思ひております。

そういった状況の中で、武雄市も老人福祉計画というふうなことで3年ごとに計画の見直しで策定をされているかと思ひますけれども、21年度以降の計画策定の状況がどのような形で策定を計画されておられるのかどうか、お尋ねをしていきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

この計画、老人健康法ですね、変わる前は、高齢者保健福祉計画ということになっておりましたけれども、法の改正により武雄市老人福祉計画、名前が変わっております。これにつきましては、吉川議員から御指摘を受けましたように、その内容が伴わないということ、実になっていないという御指摘もありました。市長が答えましたように、内容の見直しで修正をします。それから、もう1つは、介護保険の第4期計画がこの7月に発表されましたので、そこを勘案しながら、修正しながら、実のある計画にしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私もある程度調べながら、ぜひとも内容の修正、見直しをもう一度して、改めて計画を出していただければと思っております。

というのも、ある自治体の調査結果では、いろいろな、ちょっと視点を変えて話をさせていただくと、こういうふうな計画書が出て、老人の方々がその計画すら知らないという調査結果が、まず知らないという方が52%ですよ。それと、そういうふうな保険料とかという部分にはわかるけれども、そのほかはわからないというのが22%。全体で、計画があってもどういうふうな計画なのかどうか、対象者の方々がわからない、知らないというのが現場としてはあるわけですよ。

そういった状況の中で、当然、私も企業におったものですから、いろんな事業計画というか、いろんな部分で計画をつくっていくわけですね。それは現場の今の状況をいろんな数値あたりを分析して、ある程度の目標を立てて計画をつくり上げていきますけれども、でき上がった計画はすぐさま現場に落とし込んで、いかに計画を達成していくのかどうかというふうな部分で、すぐ周知徹底をしていくわけですよ。また、周知徹底をしていかんと、計画が計画倒れしてしまうというのがもう現実ですから。その辺を今後、計画は老人福祉計画だけじゃなくて、いろんな経営改善計画書とか、いろんな執行部も計画を出されておられますけれども、要は現場がどうそれを受けとめて、どう実践していくかという部分が一番計画のポイントですから、その辺をいま一度計画を出された部分の中で、いかに対象となられている老人の方々にその辺を周知徹底していかれる計画なのか、お尋ねをしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

計画の周知徹底ですけれども、これにつきましては、全員までには行き届かないかと思わ

れますけれども、老人クラブ等と協議しながら、その講座の中に入れて周知徹底を図りたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、その辺は徹底してよろしく願いしておきます。

それでは、次の行財政改革の質問に入っていきたいと思えます。

この中では、アウトソーシング、外部委託について御提案と御見解を市長にお尋ねしていきたいと思えます。

高木議員からも、水道事業の外部委託というふうな部分の話もあっておりました。武雄市も指定管理者制度の導入で、若木の大楠とか白岩体育館あたりも指定管理者の中で運営をされております。あるいは、保育所あたりも民営化ということで実施をされております。

今回、私の提案というのは、武雄市の臨時職員を一括して外部団体に委託されたらどうですかという提案ですよ。それをちょっと確認していく中で、今現在、武雄市の臨時職員は全部で何名いらっしゃって、雇用契約あたりはどのような形でされているのかどうか、お尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、緊急雇用対策と災害復旧事業の緊急分を除きまして約120名、9月1日現在で臨時、嘱託を雇用しております。原則6カ月ということで最長で1年までというような雇用期間で、日額6,360円というのを基本としながら、それに資格等が必要な特殊業務等に関しましては、嘱託職員というようなことでの採用も行っております。これにつきましては、期間が3年から5年ということで、その資格等に応じて、それぞれに賃金を設定している状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

臨時職員の方が120名ですか、雇用期間が原則6カ月、最長1年ということで、これはもう条例にもそのような形でうたっておりますから確認をさせていただきましたけれども。

リストラ、よく新聞紙上で皆さん聞かれる、リストラは解雇じゃないわけですよ。大体皆さん、リストラは解雇という認識が非常に強くあられるかと思えますけれども、リストラ、イコール、リストラクチャリングというような形の中で、再構築というような意味ですよ、



リストラというのは。

そういった状況の中で御提案をさせていただきますと、今の会社の雇用状況を見てみますと、非常に会社の今の業績が悪いものですから、いろんなところで経費の削減をしていかないと、もう利益が出ていないと、利益が出てこないというような状況です。経費の中で一番ウエートを占めるのが人件費ですよ。人件費をどうしてもやっぱり抑えよう、抑えようというのが企業側なんです。そういうふうな状況の中で、非常に民間では雇用状況が厳しい雇用環境になっております。失業率も5.7%ですか、一躍景気の回復を待ち望んでいる一人ですけれども、そういった状況の中で、非常に今の民間の雇用状況というのは厳しい状況下にあります。

そういったことで、先ほど臨時職員の方の雇用期間の6カ月、最長1年というふうな部分もお聞きした中で、ある外部団体、ほかの自治体もこの外部団体を利用されてはおりますけれども、そこに一括で臨時職員の方を委託されると、外部団体がもう正社員として雇用しますよと。安定した雇用がその嘱託職員といいますか、臨時職員も得られるわけで、また、行政側とすれば、一人一人の雇用契約もなくなりますし、あるいはそれに伴う付随した事務手続がなくなり、大いにメリットもあるんじゃないかというふうな部分で、臨時職員のアウトソーシング、外部委託をされたらどうですかと、こういうふうな厳しい雇用環境の中で安定した雇用対策の一環としてという意味でも、ぜひこれは検討の余地があるんじゃないかということで、以前、資料も提出もさせていただいておりますけれども、ぜひ、検討の余地が可能かどうかというのを一回積算をしていただきたいと思っておりますけれども、市長の御見解をお尋ねをしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょうど2週間ぐらい前だったでしょうか、テレビ朝日の「報道ステーション」で、製造業の派遣ではなくて、こういう公務員業界への派遣の特集がありました。そのときに、やはりいろんな正職員と比べると、こういうふうにデメリットがある等々のその報道がなされた直後に、今度、民主党の代議士になられた方、その前はまだなっていなかったんですけれども、電話が数本入ってきて、この辺は民主党はアンテナ高いなと思いましたが、おたくの市ではどういうふうになっているんでしょうかということをおっしゃって、実は、こういう派遣の話で以前いただいたということをおっしゃると、それはどうかなと言われたんです。何でどうなんですかというふうにおっしゃると、派遣法の見直しに今度着手をします。これは公務員の業界も含まれるかどうか、私にはちょっと不勉強でわかりませんが、ちょっとそれがあつて、その前にちょっと実態を調べたかつた。そのとき私、120人雇用していますというふうにおっしゃったので、そうなつてくると、そのちょっと動向を見守る必要があるだろう

ということ。

もう1つは、これは一般論で言うと、そういうアウトソーシングをした場合に、私どもの人事と完全に切り離されてしまうわけですね。ですので、確かに、社員となると、その方々の地位、身分は一定保たれますが、我々の雇用権者としての関係が少し離れますので、その辺のデメリットをどういうふうに勘案するかということ、賃金が本当に保障されるかといったことも一般論としてありますので、ちょっとそこは、派遣法全体の動きを見ながら、政策部のほうで検討していきたいなというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

当然、今回の政権の変更に伴って、派遣法の見直しが図られるかと思えますけれども、その辺がどうなってくるかというのが非常に重要な部分ですので、見据えた上で、また改めて御提案をさせていただきたいと思えます。

そういった上で、いろんな行革の中で、我々も議員としていろんな提案をさせていただきながら議員活動をしていくという部分の役割も非常に大きな役割というか、部分がありますから、おいおいその辺もいろんな面で御提案をしていきたいと思えます。図書館あたりも指定管理、あるいは外部委託というふうな部分もあちこちで聞いておりますから、今後、その辺に関しても突っ込んで質問をさせていただきたいと思えます。

そういったことで、先ほど臨時職員の雇用というふうな部分でお尋ねをさせていただきましたけれども、関連で、国、県の緊急雇用創出事業で、今、学校関係に教育特別支援員、指導員の配置がなされているかと思えます。そういった状況の中で、特別支援員の期間が来年の3月までですか、ということ聞き及んでおりますけれども、来年度も継続事業であればいいわけですが、継続ができないとなったときに、もう3月でこの事業は廃止になるのかどうか。せっかく支援員の方と子どもたちは1年でやっと心が通い合うというか、そういうふうな状況の中で、何とかこれは継続して事業を展開していただいて、教育特別支援員の引き続きの支援をぜひともお願いしたいというふうな部分で、もし、その特別雇用が期限がなくなれば、武雄市単独でも事業化をしていただいて、継続事業として続けていただきたいと思えますけれども、御見解をお尋ねしていきたいと思えます。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育部長

**○浦郷教育部長〔登壇〕**

御案内のように、この事業につきましては、今、武雄市の中では7校において補助員を配置しているところであります。この補助員の業務としては、今、議員が言われましたように、日常生活上の介助、学習支援、児童・生徒の健康や安全確保、周囲の児童・生徒への障がい

理解促進、こういうものを行っているところであります。

考え方としては、国へは3年間の配置計画をお願いしておりますけれども、言われるように、申請が単年度という事業になっているところであります。

この22年度につきましては、児童・生徒、あるいは学校の要望、こういうものを確認しながら、既に配置を今している部分もあります、この生活支援員として。そういうもの等含めて、全体的な支援員の事業で調整を図りながらも、何とか予算の確保を要請していきたいということで考えているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

学校現場においては、非常に助かっているという言葉が非常に聞こえてきますし、現場で私も入らせていただいて、非常に大きな一役というか、役割を担っていただいておりますから、これはぜひ予算化も継続して、教育部長として努力をしていただきたいと思います。

先ほど言いましたように、せっかくなれ親しんでといいますか、そういうふうな支援を受けながら体制も整って、1年で引き上げるというのは、余りにも酷といいますか、教育の現場としては非常に困惑する部分があるかと思えますから、ぜひともその辺は支援体制の継続をお願いさせていただき、最後の環境整備の質問に入っていきたいと思えます。

環境整備というのは、いろんな整備事業というか、整備があるかと思えますけれども、金融環境についてお尋ねをしていきたいと思えます。

ここで御紹介といいますか、小規模事業者の資金調達を支援しますよというふうなマル経融資という融資制度があります。ちょっとこの中身を紹介していきますと、非常に企業の経営環境が厳しい状況にあります。メイン銀行といいますか、信用金庫あたりでは、1行ではなかなか、今の経営状況では企業に対しての融資がもう限度額いっぱいだとかというふうな部分で、非常に資金の調達が企業側にとっては厳しい部分が出てきております。そういった状況の中で、昔、国金と言っておりましたけれども、今は日本政策金融公庫ということで名称が変わりましたが、そこで取り扱っているマル経融資ですね。ちょっと説明いたしますと、商工会議所、また、商工会で経営指導を受けている従業員20名以下の小規模事業所を対象に、日本政策金融公庫で低利の融資を受けられる制度でありますというのがこのマル経融資制度でございますけれども、このマル経融資の今の利用状況が武雄市としてどのくらい利用がされているのかどうか、まず確認をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねのマル経融資、小規模事業者経営改善資金の件でございますが、ここに資料ござい

ますが、平成16年から21年の8月までの貸し付けの状況を見ますと、ほとんど件数、それから、貸付金額等には毎年の差はないようでございます。数字を申し上げますと、これは武雄商工会議所、それから、旧北方商工会、旧山内商工会の合計でございますが、平成16年度が11件の貸付金額が3,570万円、それから、17年度が11件の3,200万円、それから、18年度が6件の1,870万円、それから、19年度が13件の3,240万円、それから、20年度が10件の3,180万円ということで、それから、平成21年度につきましては、8月までについてはまだ貸し付けの実績がないということでございます。

逆に、さきの議会でありましたように、昨年から業種の拡大があった、いわゆるセーフティネット関係の融資が、かなりそっちのほうにふえているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

当然、それはセーフティネットの融資も、それは別枠としてありはしますけれども、このマル経融資もマル経融資で経済省あたりは拡充に力を入れているというふうな状況の中で、実績を今聞かせていただきましたけれども、非常に少ないといいますか、月で言えばわかります。年間ですよ。年間10件というふうな状況ですから、非常に少ないですね。

少ない利用状況をどう認識しておられるのかどうかということでお尋ねをしていきたいと思っておりますけれども、私なりに、なぜこう利用状況が少ないかという部分で実態をちょっと調査させていただきますと、借り手側の企業の経営内容が非常に悪化しているというような状況の中で、借りてもなかなか返済できるような経営状況じゃないというのも1つの原因だと思いますね。それとか、先行きが若干不透明なものですから、設備を差し控えるというふうな部分も1つの借り入れの実績が少ないというふうな部分。いろんな部分があるかと思っておりますけれども。

ただ、要は市民病院の問題も一段落といたしますか、病気になると病院の先生に診てもらうわけですよ。企業の経営が悪化すれば、病院に行くわけにはいかんわけですから、そこに商工会議所、商工会の役割というか、そこに経営指導員という方がいらっしゃるわけですね。もう病院の先生のかわりですよ。そういうふうな状況の中で、商工会、商工会議所の指導員の役割というのは非常に重要な部分かなということで私なりに、それは当然、金融機関あたりの融資の担当者あたりも、何とか地域の経済の活性化のためにというふうな部分で取り組んでいらっしゃるの当然でございます。そういった状況の中で、若干視点を変えていただいて話をさせていただいておりますけれども。

そういった状況の中で、また、ちょっと話戻りますけれども、商工会、商工会議所の役割が非常に多い中で、予算をちょっと調べてみますと、非常に県の補助金あたりが減少しているわけですね。資料をいただくと、商工会議所の県の補助金、平成16年度が3,000万円です

よ。それが年々100万円ずつ減額されている、県の補助金が。平成16年の3,000万円が平成20年度ではもう2,600万円、約400万円減少というふうに減っている状況にあります。

そういった状況の中で、武雄市としてはどういうふうな位置づけで商工会議所、商工会を考えて予算措置をされているのかどうか、武雄市の補助金の支給状況もあわせて御答弁をいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

補助金関係につきましては、先ほど申されましたように、経営指導員さんたちの人件費についてはほとんどが県の補助金ということで、商工会議所については、先ほどありましたように、平成16年に対し、平成21年で約400万円程度減っているという状況です。それから、商工会につきましては、これは平成20年までは北方、山内の商工会で経営されておりますが、そこについても若干のやっぱり減少はあると思います。ただ、平成21年度の4月から武雄市商工会として合併をされておまして、その中では経営指導員さんが1名の減、それから、事務局長さんが1名の減ということで、その分については確実に減になっているということでございます。

それから、この商工会の補助金については、平成21年度から県の商工連合会のほうから一括して人件費については支出がされるということで、商工会そのものについては事務費相当分の補助があっているということでございます。

それから、市の補助金につきましては、これについてはここ数年、会議所については補助金の増減はあっていないということでございます。それから、商工会につきましても、合併前、それから、ことし合併されましたけれども、平成21年度については前年の山内、北方の商工会の補助金を足した分で補助をしているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も、補助金の支出状況の確認をさせていただきました。商工会議所の場合は、平成20年度、県の補助金が2,600万円、武雄市の補助金が77万円、平成21年度予算として、同じように、県の補助金が2,600万円、武雄市の補助金が77万円。商工会に至っては、県の補助金が220万円、市の補助金が1,239万円というふうな部分で支給がされてはおりますけれども、私が何を言いたいかといいますと、経済産業省がこのマル経融資の制度をもう少し拡充して、もっと地域の中小企業の融資の窓口を広げたい中で、今の経営指導員の状況を見るというか、先ほど言いましたように、我々が病気になると先生に診てもらおうというような状況で、企業の経営が悪くなると経営指導員に見てもらおうというか、経営改善をどうしていっていけばい

いのかという部分の中で、今、武雄商工会議所の経営指導員の方が3名、商工会議所も3名ということで、現場で話を聞くと、もう1名増員といいますか、この規模でいけば、何とか4名体制でしていただければ助かるというふうな声が出ております。そういった状況の中で、何とかこの分に関しては、やっぱり地域の活性化、今、非常に冷え込んでいるものですから、何とか地域の中小企業の方の支援策のためにも、こういうふうな経営指導員の増員まで行って、盛り上げていただきたいというふうな部分の中で、小規模企業対策を市長としてどのような形で考えていらっしゃるのかどうか、いま一度、商工会議所、商工会の位置づけも踏まえて、予算の確保もあわせて御答弁をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、厳しい経営環境の中で、武雄商工会議所、そして、武雄市商工会の皆さんたちは本当に一生懸命頑張っておられることに敬意を表したいと思っております。

そういった中で、ほかの各種団体については補助金のカットをやる場合もありますけれども、商工会議所はさきに申し上げたことにより、今の補助金の、県は減らしておりますけれども、武雄市としては補助金のカットは考えておりません。そういった中で、今の厳しい現状の中、私どもも精いっぱい支援をしていきたいというふうに思っております。

なお、人材確保の件につきましては、ちょっとすみません、私、今初めて伺いましたので、補助金の件と含めて、ちょっと勉強させていただきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひその辺のことを、現場に行って実情を認識していただいて、対策を講じていただければと思いますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

続いて、環境整備ということで、河川環境整備について通告もさせていただいておりますので、質問をさせていただきます。

23番議員も河川管理についてお尋ねもされていたようですので、重複は避けさせていただきますながら、私の家の前も川が流れておりますけれども、昔に比べて非常に河川が荒れているといいますか、そういうふうな情景があちこちで散見されます。特に、私の近くを例に、写真を持ってきて説明すれば一番よかったですけれども、ヨシが茂って、もう河川の機能を果たしていないといいますか、底がヨシで、もうどんどん上に上がってきておるわけですね。ちょっとした豪雨でも、今度の7月の豪雨でも、もう水位が見る見る間に上がっていくわけですよ。その1つの要因は、そういうふうなヨシとかなんとかで非常に川底が上がっていると、盛り上がっているというような、そういうふうな状況が出ております。

そういうふうな上流部の状況が下流部の河川のはんらんにつながっていている要因も、そこにあるんじゃないかというふうに、私なりに思って判断というか、そういうふうな河川の今の状況を見ている状況ですけれども、道路行政とあわせて河川行政という部分の中で、もう少し力を入れていただきながら、パトロールあたりもしていただきながら、ある程度の計画の中で河川管理もしていただきたいということで要望もさせていただきたいと思います。

もし、そういうふうな形で行政の手に負えないというふうな部分に関しては、農地・水・環境保全対策事業で対策も講じていただいているような状況の中で、地域、行政区に委託するという方法もありますものですから、その辺の考えも含めて、その辺はもう少し河川整備の面に関しても、道路行政もそれは非常に大事な状況だと思いますけれども、河川行政にももう少し力を入れていただきたいということを切にお願い申しまして、御見解を確認させていただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

河川の維持管理については、確かに、特に草刈りですが、地元の公役等に依存しているというのが現状でございます。ただ、しゅんせつという、今、議員おっしゃる、土砂の堆積です、ね、こういうものは重機を使わにゃいかんという状況ですから、それについては市が対応すると。ただ、どうしても予算の関係もあって、なかなか簡単にできないという面もありますが、今後は道路行政同様、河川のほうにもパトロールしたりということで目を向けたいというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ぜひ河川行政にも力を入れていただくことを切にお願いして、最後になりますけれども、エコ環境ということでお尋ねをしていきたいと思います。

市役所も、ことしから緑のカーテンをされておりますけれども、今、見たところ、少し緑のカーテンが栄養不足じゃないかと、ちょっと時期おくれかなという部分です。せっかくされてはおりますけれども、もう少し栄養をやっていただくとか、早目に対策を講じていただければ、もっと効果が上がったんじゃないかというふうな部分でおりますけれども、来年は青々と茂った緑のカーテンをぜひともお願いをさせていただきながら、武雄よかとこ写真展というようなこともされておりますし、緑のカーテン写真展というような部分も非常に、余りお金のかからないエコ環境づくりというふうな部分で、市民参加でそういうふうな部分の企画もいいかと思しますので、率先してその辺の緑のカーテンももっと生い茂る、青々の、市長の勢いのあるような思いの中で今後していただきたいと思っておりますけれども、いかがでし

ようか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この緑のカーテンは、今一番、多分、武雄市で市役所の中で元気のある課の1つである環境課が、私も副市長も知らないところで着々と準備を進めていて、ぜひやろうということで、私も副市長も言うたことですよ。これ、ちょっと遅かばんたて。そいばってん、させてくださいということでしたので、それはもうやってみゆいさいということ、したと。そういう意味では、環境課の心意気は高く、伊藤課長以下、評価をしています。ただ、やっているうちに、例えば、土の問題であるとか、ちょっと小さかったわけですね。もう上がりよううちに根まで出てきたりとか、さまざまな問題が生じてきましたので、今後は、来年は時期の問題と、あと例えば、ゴーヤを入れたりとかヘチマを入れたりして、ぜひ農業の専門家である小池議員の御指導を賜りながら、あるいは山口良広議員のお力を賜りながら、地に足のついた緑のカーテンをしていきたいと思えます。そういう意味では、環境課については、私は高く評価をしているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市役所の緑のカーテンを見たときに、ふと感じたものですから、ちょっとその辺をもう少し手を入れていただければなという思いの中で、エコ環境で質問をさせていただいたところでございますけれども、来年はぜひともその辺の部分で力を入れていただきたいと思えます。

そういった状況の中で、スクール・ニューディールというふうな部分の中で、学校の電子黒板とか、いろいろな部分での支援もしていただいております。それとか、前回の質問のときにも、学校に太陽光電池の導入をしたらいんじゃないですかという質問も出ていたようであります。あるいは、上田議員やったですか、運動場の芝生化もぜひともお願いしたいというふうな部分も出ておりました。

周辺部にとっては、学校環境といいますか、学校施設は学ぶ子どもたちの身近な施設ですけれども、地域の周辺部の我々にとっても唯一の公共施設といいますか、学校の施設とか運動場は。そういうふうな部分の中で芝生化もぜひとも今後検討していただければ、鳥取方式あたりは非常に価格が安くて、あるいはその辺の芝生化の管理あたりを地域のボランティアの方々にしていただければ、非常に子どもたちの交流としてもいい機会になるのではないかと、いうふうな部分の中で、いろんな提案も今後、私なりにさせていただくことを申し上げて、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）



以上で4番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。